

令和5年度
発生予察情報

発生予報第11号（概要版）

令和5年10月23日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
秋まき ほうれんそう	べと病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	シロオビノメイガ	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: 平年並	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
いちご	うどんこ病	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: 平年並	
	コナジラミ類	発生量: 平年並	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第12号の発行日は11月20日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ

トップページ

登録フォーム

—11月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:10月13日

天候予報:仙台管区气象台10月19日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/±)
- (2)10℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、被害は確認されなかった。(/±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロオビノメイガ	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生頭数は平年並であった。(/±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±)

予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±): 平年並になる要因 (-): 早くなる要因 (空欄): 該当せず
発生量・・・(+): 多くなる要因 (±): 平年並になる要因 (-): 少くなる要因 (空欄): 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) ベと病

- ・多湿条件で発生が促進されるため、施設内の湿度の低下を図る。また、灌水は葉が乾きやすい晴天日に行う等の対策を行う。

(3) アザミウマ類・ハダニ類

- ・収穫適期を過ぎた株がほ場に残っていると発生源となりうるため、速やかにほ場から持ち出し適切に処分する。
- ・アザミウマ類は株心部の幼葉が重なりあった部分に生息しており、薬剤がかかりにくいいため、薬剤散布の際は充分量を丁寧にかけるよう努める。

(4) アブラムシ類

- ・吸汁による葉の変形や、多発時にはすす病を引き起こすため、周辺雑草の除草を行い侵入防止に努める。

(5) シロオビノメイガ

- ・防虫ネットの展張を行い、成虫の飛び込みを防止する。
- ・幼虫は栽培期間を通して断続的に発生するため、早期発見・早期防除に努める。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー11 月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:10 月 12～13 日

天候予報:仙台管区气象台 10 月 19 日発表

1 発生予報

病虫害名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/±)
- (2)20℃前後が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

病虫害名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率及び発生地点率は平年並であった。(/±)
- (2)25～30℃で乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病虫害名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率及び発生地点率は平年より低かった。(/ー)
- (2)23～28℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・本ぽに天敵や訪花昆虫を導入する場合は、天敵等に影響の少ない薬剤を計画的に散布する。
- ・施設周辺および施設内の雑草は害虫の発生源なのでほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- ・適切な温度管理やかん水、葉かき作業と予防防除を組み合わせ、発病予防に努める。

(3)ハダニ類

- ・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。天敵を使用する場合は、ハダニ類がまだ低密度で散見され始めた時に最初の放飼を行う。
- ・ハダニが多発している場合は、天敵放飼前に化学合成農薬や気門封鎖剤等でハダニの密度を低下させておく。
- ・気門封鎖剤は、対象害虫にかからないと効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布するとともに、薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- ・気門封鎖剤の多くは、ハダニ類の幼虫～成虫に効果を発揮し、卵には効果を示さないため、最初に気門封鎖剤を散布し、ハダニの卵が孵化した後に2回目以降の散布を行う(ハダニ類は25℃条件下で卵から3日程度でふ化、その後7日程度で成虫になる)。多発時は複数回散布する。
- ・UV-Bを葉の表と裏に照射することにより、うどんこ病だけではなくハダニ類の密度も抑制されるので、本ほにUV-B電球形蛍光灯を設置している場合は、ハダニ類の防除の一環として葉の裏にもUV-Bを当てるため花房受けに光反射資材の設置を行う。

※「普及に移す技術」第96号(令和3年発行)指導活用技術20「促成イチゴにおけるUV-B電球形蛍光灯と反射資材の併用によるハダニ類抑制効果(追補)」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/847341.pdf>

(4)コナジラミ類

- ・主に葉裏にいたので、薬剤散布は葉の表だけでなく植物体全体にかかるように散布する。

(5)ハスモンヨトウ

- ・食害が広範囲で確認されており、本県への成虫の飛来は11月上旬頃まで続くと考えられる。
- ・台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
- ・幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するとされるので、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。薬剤防除を行う際は、天敵や訪花昆虫に影響が少ない剤を選択する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム